

## 行政視察報告

## 民生産業委員会



この程、民生産業委員会は北海道池田町の地域ブランド開発に係る「ワイン事業の取り組み」そして、江別市の産学官連携による「江別小麦めんの取り組み」について研修してまいりました。

池田町のブドウ栽培は棚立て栽培と異なり、垣根仕立ての方式であります。

極寒の土地柄、ブドウの開発にあたっては、ヨーロッパ各国のワイン主産地から導入した200種類の中から各種試験を通じ、池田町の環境に適した新品種の開発に成功され、道産食品独自認証制度ワイン部門第1号に選ばれ、また、観光客に親しまれるためのワイン城改修により、プロが選ぶ土産物施設100選に選ばれるなど、町を挙げ、池田ワインの製造・販売に取り組んでいました。

次に、江別市の取り組みについて紹介いたします。

気軽な個人の集まりにと、市民と産学官連携の場として、活性化について検討に入る。

地域住民が選び、支持・育てる地域固有のものとは？米の減反政策を機に小麦の生産に、そして、地場産品のブランド化への取り組みが始まり、生産者・製粉業者・製麺業者との連携による「江別小麦めん」が誕生する。

江別小麦めんの特徴は、もちもち感と艶やかさがあり、現在市内で和洋中華で20店舗100種のメニューがある。

産学官連携による江別小麦めんは全国的にも評価は高く、小麦めんがもたらす経済波及効果は大である。

現在では、小麦に次ぐ新たな地域ブランドの創出を目指している。

終わりにあたり、地域ブランド商品の創出が新しい事業の立ち上げ、雇用の促進、地域経済の活性化、また、若者の定住促進としての効果も期待できるものであり、竹原の地産による地域ブランド商品が全国へ発信できるよう、行政視察で学んだこと、感じたことを提言してまいります。

民生産業委員会 委員長 北 元 豊

## 行政視察報告

## 総務文教委員会

総務文教委員会では、5月13日～14日に東京お茶の水にある、明治大学アカデミーホールにおいて行われた「第48回 平成22年度 地方自治経営学会研究会」に参加してまいりました。



この度の研究大会の全体テーマは、「政権交代で日本の政治、行政はどう変わったか～地域主権、事業仕分、地方議会、超高齢社会～」と、自民政権から民主党政権への歴史的な政権交代を受けての研究テーマとなりました。

視察の会場となった明治大学に到着して、まず驚いたのが、その近代的な校舎でありました。校舎内に博物館も備え、また法律相談を実施するなど、私の大学時代とは、その規模や運営についても随分と近代的、また積極的な取り組みをされていると感じました。

今後の少子化の中、少しでも優秀な学生を確保し、大学の魅力づくりとしての設備や学業の充実、地域への貢献等と、積極的な取り組みをされていることに感心しました。

本市も少子高齢化、人口減少時代を迎える中で、鋭意積極的なまちづくりに取り組まなければならないと感じました。

さて、研究大会ですが、地方経営学会会長でもある片山前鳥取県知事が司会、コメンテーターとして研究会全体の進行役になられ、プログラムが進んでまいりました。

衆議院議員、大学教授、新聞社編集委員、首長、地方議員、各界の著名人が登壇され、「地方分権問題」「政権交代における国家構造の転換」「事業仕分の評価」「超高齢社会」「商店街の再生問題」等、様々な視点に立って、満員の会場が熱気を帯びるほどにパネルディスカッション、講演を通して意見が述べられ、また議論されました。

紙面の都合で個々の内容については省略させていただきますが、先にふれました大学の将来を見据えた積極的な運営努力とも共通しますが、まさに厳しい時代を迎えた竹原市にとって、地方主権、自主自立のまちづくりを推進すべきと考えました。

総務文教委員会 委員長 鴨 宮 弘 宜